

平成28年度 環境生活委員会行政視察報告書

環境生活委員長 坂本 隆司

視察日：平成28年10月11日（火）～12日（水）

視察都市及び視察項目

1. 秋田県仙北市：定住事業について
 - ・ 移住・定住事業について
 - ・ 住宅支援事業について
2. 岩手県紫波町オガール紫波株式会社：オガールプロジェクトについて
 - ・ 補助金に頼らないオガールプロジェクトについて

1日目 秋田県仙北市

秋田県仙北市は田沢湖町・角館町・西木村が合併した街です。仙北市は自然が豊かで観光地としても、田沢湖や角館の武家屋敷と全国でも有名な場所でも、もともと交流人口は他の地域と比べても多い地域です。しかし、ここ10数年の人口動態を見てみると、毎年人口減少がみられ平成22年の29,500人から平成28年では27,800人と人口減少が止まることはありません。そこで移住と定住とを分けて考え様々な取り組みを行っているので、視察研修先として選定しました。

仙北市では、総務部地方創生・総合戦略室より詳細に定住事業についての説明があり、その後質疑応答をさせていただきました。マイホーム取得支援事業については定住・移住共に補助金の申請ができ、子育て加算や市内施工業者加算が認定されれば最大90万円の補助が受けられる制度です。他の地域でも多くみられる制度ですが、補助金の大きさと地元施工業者の連携が取れていることに驚きました。そして「新婚さん大歓迎」と称して新婚世帯のアパート家賃の補助も行っているのです。若い世代を取り込むには素晴らしい事業だと参考にさせていただきたいと思います。若い世代は収入も少なく子どもができれば、生活費もかかります。子どもが生まれる前から家賃を補助してもらえるのはありがたいです。子どもが生まれて保育園や学校に行きだせば、その家族が他に移住する確率は減るはずで、ですからその一番大変な時期に補助してあげられる政策が重要だと改めて考えさせられました。また新婚さんから住宅の補助や空き家バンクの情報提供、子供が生まれれば、第2子以降の保育料を全額補助と若い世代への手あつい補助がされているのです。就業支援にも力を入れていて、就農者の募集や起業支援、女性の起業をサポートと若い世代への視点が多く取り入れられています。

仙北市では各事業に対して、目標値を定め取り組んでいました。現在目標に向

け職員が懸命に努力している姿を拝見でき、素晴らしい研修になりました。

2日目 岩手県紫波町オガールプロジェクト

岩手県紫波町は、盛岡市に近く、幹線道路が南北に通っており、交通の便が非常に良い町です。農業も盛んであり、生産量県内1位のそばをはじめ、各種野菜やフルーツ栽培も盛んな土地であります。

オガールプロジェクトは、補助金に頼らず独自の発想から進めてきたプロジェクトです。紫波町には東北本線が通っており、昔は駅が2か所あったそうです。その中心部に位置する現在のオガールの位置にある紫波中央駅は明治の時代から駅を造ってほしいと町民運動があった場所でした。駅ができることもあり土地開発公社で土地を買い上げ、宅地造成を行い順調に進んでいたようです。駅周辺部については最後まで残し、11.7haを1997年に紫波町で28.5億円をかけて購入したそうです。しかしこの時が税収のピーク時で翌年からは減収となり開発計画自体が頓挫してしまっただけです。その後10年間、塩漬け状態だったと説明がありました。

そこで新しく就任した町長が民間に任せると決断し、紫波町公民連携基本計画を策定し、その計画を「オガールプロジェクト」と命名したそうです。

多くの自治体で公共施設と民間施設と一緒に開発する事業は行われてきましたが、ほとんどが失敗しているのです。公共的発想では作ることが目的となってしまう、持続可能性が乏しいのです。オガールプラザでは、金融機関からの投資を受けるにあたり、開発前のテナント募集営業に18カ月もの時間をかけたそうです。その結果、貸し出す床面積のすべてのテナントを事前に確定できたのです。

オガールの特徴は、民間企業である運営会社と入居テナントが土地代の家賃と固定資産税を支払っていて、紫波町からの委託料や補助金が出ていないのです。この先、土地購入金額の償還ができるかが気になりますが、現在は出店テナントも順調に運営されているようです。それには町立の図書館を誘致したり病院や地元産のマルシェの出店があり集客力があることが重要な戦略だったのではないのでしょうか。塩漬けになっていた11.7haの広大な土地が駅前にあり、庁舎の移転や図書館の移転と様々な背景があったこともありますが、民間的発想で進めたキーマンの存在が不可欠です。行動力のある、そして前へ進める勇気ある人材も必要だと考えさせられました。

今後は、岩手県紫波町で研修した内容を踏まえ、龍ヶ崎市でも計画されている新都市拠点エリアの開発に生かせればと思っています。